

山口のクリスマスを盛り上げよう！

ーブラッシュアップ・ヤマグチー

代表者 岩瀬 陽希（人文B 2年）
構成員 堂本悠太（人文B 2年） 前川大知（理学B 2年） 瞿豪（人文B 2年）
竹田夏海（工学B 1年） 小川廉太郎（国際B 1年）

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは、私たちが学生生活を送る中で目にした史実「日本のクリスマスの発祥の地は山口である」ことについて、その認知度や史実を利用した山口市のイルミネーション文化には伸び代があると感じた私たちが、一山口市民として少しでも貢献したいと考えたことで企画されたものである。私たちに出来ることとしては、学生を中心とした若者や山口大学近くに住む人々をターゲットに、この史実の魅力を多くの人に知ってもらい、クリスマス文化に対する注目度を向上させることだと考えた。そこで史実やイベント情報の広報活動を行うことと、山口大学生のみならず多くの人が目にしている既存の山口大学の正門イルミネーションに手を加えることで、文化振興及び地域活性化を狙った活動を行うこととした。

2. プロジェクトの背景・目的

1552年旧暦12月9日（12月24日）、現在における山口市で行われたイエスの降誕祭が日本で初めてクリスマスが祝われた日であると記録されている。（2006年、スペイン・ナバラ州政府より山口市に公認書が贈られている。またナバラ州パンプローナ市と山口市は1980年に姉妹都市締結をし、長きに渡り様々な交流を行っている。）それを受け、山口市では毎年12月に「クリスマス市」と名前を変え、また山口商工会議所「日本のクリスマスは山口から実行委員会」が中心となって市内各地で様々なイベントやセレモニーの開催及びイルミネーション装飾を行うなどしてPR活動をしている。しかしながら、それを知る人は決して多いとは言えず、盛り上がりには欠けると言わざるを得ない。その状況を打破するためにまず必要なのは、この史実や文化を、一般の山口市民はもちろんのこと、県外からの入学生が多い山口大学生に知ってもらうとともに、今まで以上にクリスマスという文化を楽しんでもらうことだと考えた。本プロジェクトはそれを目的としている。

3. 活動方法

本プロジェクトが始まってからは、基本的には週に月・水・金の3回活動を行った。当初はボーノ横の施設「胡桃の樹」を利用し、その後職員さんに手配していただいた共通教育棟の教室を利用。11月からは共通教育棟の使われていない部屋（講義用教室ではない部分）を貸していただけることとなり、週3回の活動に加えて空いた時間にも活動を行うことができた。

また自主活動ルームも多数利用し、メンバー内ミーティングやコーディネーターの方や学生支援課の方との相談の場となった。それ以外は基本的にメールと電話を利用した連絡を関係各所（山口県、山口市、山口大学事務局、山口大学学務係、山口商工会議所など）と取り、様々な調整をした。

4. 主な活動内容

本プロジェクトの活動は、上記からわかるように大きく2つに分けられる。

- 一. 冬季の山口大学正門付近イルミネーション
- 二. SNSを用いた広報活動

4.1 冬季の山口大学正門付近イルミネーションについて

点灯期間を11月30日から12月25日の毎日17時から21時までとし、点灯範囲を山口大学正門と正門前にある公園「街かど広場」とした。

まず、準備段階の活動について記す。

イルミネーション実現のための主な流れとしては、①点灯許可、②点灯のための電源確保、③LED イルミネーション本体及び配線の購入、加工、④設置準備、⑤設置となる。

①山口大学の敷地内については特に問題はなかったが、敷地外については、その所有・管理主に許可を得なければならない。公園「街かど広場」については県が管理する広場であり、管理上は公園も道路の一部であるため「道路占用許可」を県から得る必要があった。しかし個人ではその許可が下りにくいことから、今回は山口商工会議所から山口市に対して許可申請の請願書を提出していただき、申請に対する認可を市長から得た後、市から県に「道路占用許可申請」を提出し、一定の手続きを踏むことで許可を得ることができた。

②大学の正門の電源に関しては、大学の電気工事を請け負う業者のひとつである「セイブ電気」に見積もりを依頼し、守衛所近くの分電盤から専用ブレーカーを引く電気工事により電源の確保が完了した。その電源が届かない部分については予算で購入したバッテリーで電気を賄った。そして学外となる公園「街かど広場」については、県担当者より公園内の分電盤は使用不可と連絡があったため、確保に難航した。そこで公園近くの不動産会社に相談したが、管理上の事情により電気を引くことは出来なかった。最終的にはソーラータイプの簡易的なライトを使用することで点灯を実現した。

③本プロジェクトに割り当てられた予算で購入するため、機材入手に関しては大きな問題は生じなかった。しかし、限られた予算の中で揃えるため最安値に近いものを購入せざるを得ず、LED イルミネーションに関しては防水が不十分なものがほとんどであった。

それにより、山口大学の施設環境部の方などにアドバイスをいただきながら自分たちの手で防水加工を行った。



防水処理の様子（同時にはんだ付け不良の修理も実施）

また、単に一般的なイルミネーションを行うのではなく、「山口らしさ」のある、独創的な装飾を行いたいという考えから、JR 西日本の運行する SL やまぐち号をイメージしたオリジナルネオンライトを制作した。SL に山口大学のキャラクターである「ヤマミィ」やサンタクロース、トナカイが乗ったデザインにし、親しみのあるデザインが人気を博した。（ヤマミィのデザイン使用許可は山口大学広報室に得ている。）



ネオンイルミネーションの様子

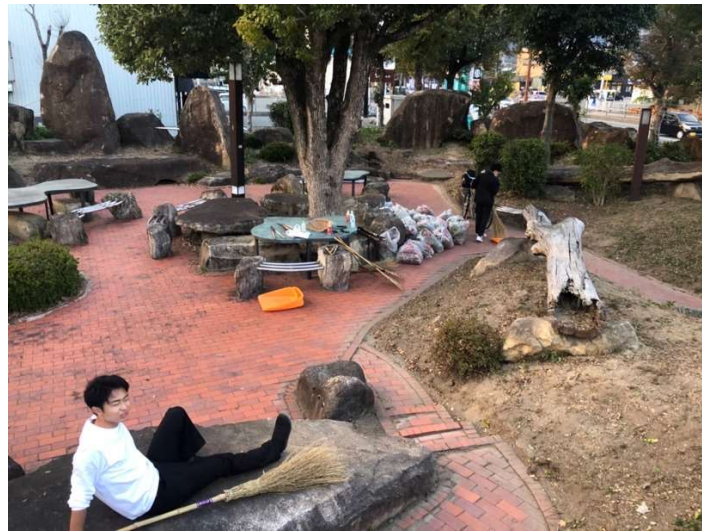
加えて、山口が日本のクリスマス発祥の地ということを広めるとともにクリスマス文化を盛り上げるという目的達成のためのアピールとして横断幕をデザインし、正門の欄干に設置した。これについてもデザインに瑠璃光寺五重塔や維新スタジアム、SLのイラストを取り入れ、「山口らしさ」を意識した。



横断幕の様子（夜間は手前のソーラー式の照明が点灯）

④設置前に、公園「街かど広場」の整備を行った。公園は、大学前に位置しながら学生が利用することは少なく、また地域住民からはひと気の少なさから犯罪の温床になるのではないかと懸念する声もあるようだった。原因としては公園内に雑草が生い茂ったり雨風で土砂が流出したりしていることで人の手が加わっていない印象があることや、夜間の照明が点灯していなかったことから気軽に入りづらい雰囲気になっているためだと考えられた。そこで設置前に整備を行うとともに、県に照明の再点灯を依頼した。そして今回のライトアップによって公園の魅力を再認識してもらうことで、点灯終了後も地域に利用されることを目標とした。大学から整備用の道具を借り、数日間かけて広場の整備を行った。

また、公園周辺の整備も兼ねて、山大通りに植わっているケヤキを管理する山口ケヤキの会（本プロジェクト支援教員である小川先生、市議会議員安河内氏が関わる団体）とともに、山大通りの清掃作業も行った。



公園「街かど広場」清掃後の様子

⑤については、限られた時間の中で設置作業を行うことは難しいと判断し、有志を募った。ONEPIECE 考察サークルの方々や留学生の方々に連絡をいただき、一部作業を手伝っていただいた。それ以外は少々危険も伴ったが大学から脚立を借りるなどして自分たちのみで設置作業を行った。



イルミネーション設置の様子

そして11月30日には山口大学でイルミネーション点灯式が行われ、本プロジェクトの代表挨拶をし、その後ツリーに合わせ、私たちのイルミネーションのスイッチを入れた。点灯時の歓声はとても喜ばしいものであった。点灯式終了後から点灯期間終了後にはその保守作業に追われた。当日夜から故障が頻発し、氷点下や雪の中といった環境下ではあったが連日修理作業を行った。点灯開始時からイルミネーション点検は定期的に行っていたが、さらなる故障やトラブル防止のために新たに点検チェックシートを作成し、その日の担当者がチェックを行った。点灯期間終了まで、少なくとも1時間に1回は交代でチェックを行い、可能な場合は正門付近に常駐するようにした。緊急の場合はグループラインに連絡し対処した。その甲斐あってか、小さな故障はあったものの大きなトラブルは回避することができた。

イルミネーション 点検チェックシート

	月 日 時 分 担当者
1. 故障・未点灯箇所はないか (ある場合、記入: _____)	(はい・いいえ)
2. 異音・異臭はないか (ある場合、記入及びその機器の電源を落とす: _____)	(はい・いいえ)
3. 防水加工箇所のテープ剥がれ等はないか (ある場合、記入・補修: _____)	(はい・いいえ)
4. 固定具(針金や結束バンド)が外れている箇所はないか (ある場合、記入: _____)	(はい・いいえ)
5. 線(コンセント)が外れそうな箇所はないか (ある場合、記入・押し直し: _____)	(はい・いいえ)
6. 巻きつけ等が破損したり剥がれている箇所はないか (ある場合、記入: _____)	(はい・いいえ)
7. ペダの差し込みがゆるくなっている箇所はないか (ある場合、記入・打ち込み: _____)	(はい・いいえ)
8. 点灯モードがおかしい・不安定な点灯をしているライトはないか (ある場合、記入: _____)	(はい・いいえ)
9. その他問題点はないか (ある場合、記入: _____)	(はい・いいえ)

・分電盤内、抜けていたコンセントがあれば押し直すこと。
・スノーマンの様子をチェックすること。
・遠かに声をかけられた場合、対応できるものは対応(できるれば大字に確認し直す必要)。
・異音・異臭があった場合は、直ぐに消防署に連絡すること。
・大きな事故やトラブルが起きたら、警察や火災などがあつたら大学に連絡すること(繋がらなければ学務所、必要に応じて警察や消防なども)

点検チェックシートの画像

4.3 SNSを用いた広報活動について

本プロジェクトではSNS等を用いて、山口が日本のクリスマスの発祥の地であるという史実や山口商工会議所などが開催しているイベント等の広報活動も行った。SNSを用いた理由としては、近年の学生は日頃スマートフォンやパソコンを利用してSNSをよく閲覧していることから、それに合わせた手段を用いることにより情報が対象者の目に留まりやすいと考えたからである。今回は学生が多く用いているTwitterとInstagramのアカウントを作成し、企業の公式アカウントの運用を参考にしながら投稿した。またそれに加え、点灯期間中はイルミネーションを点灯していることを写真とともに知らせ、クリスマスシーズンであることをアピールする投稿も行った。SNS広報活動の結果としては、目に見える大きな効果があったとはいえないが、ある程度のフォロワー数(Twitterが200人弱、Instagramが500人弱)と投稿に対する「いいね」数(10~100件)を獲得し、また投稿自体の閲覧数は差があるものの多いものでは5000件程度となっており、多くの人の目に留まったことがわかる。



SNS 投稿の例 (画像は Instagram)

また、SNS への誘導も兼ねて学内にポスターを設置した。設置場所は各学部掲示板、食堂（ボーノ、きらら）、FAVO、共通教育棟掲示板などである。プロジェクト開始時のポスター（チラシ）にも QR コードを掲載していたがそれとは別に掲示することでさらなる認知を狙った。



学内に設置したポスター

4.4 山口商工会議所との連携

本プロジェクトでは、計画段階から山口商工会議所と打ち合わせをし、活動内容の検討を行ってきた。そして最終的には「日本のクリスマスは山口から実行委員会」の一員となり、連携した活動を行うこととなった。連携内容として、実行委員会からは毎年発行しているパンフレット及びホームページへの情報掲載、本プロジェクトからは先述の SNS 広報活動が主となった。



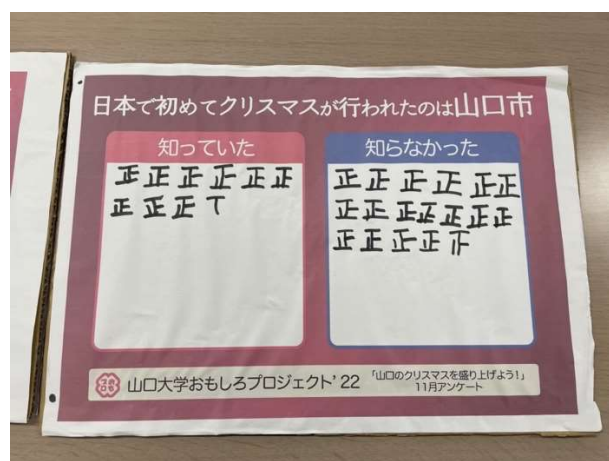
毎年発行されているパンフレット（本イルミネーションは左下に掲載）

5. 活動による効果

本プロジェクトの中で山場であるのは点灯期間かつクリスマスのある 12 月と考え、11 月と 1 月にアンケートを行うことで活動効果を調査した。1 度目と 2 度目でアンケート方法を変えてしまったため、単純比較できないことは反省すべき点であるが、参考にはなると考えられる。

1 度目のアンケートは、大学の学食（ボーノ、きらら）、FAVO、正門で行い、アンケートボードを用いた Y/N 方式により回答を得た。

2度目のアンケートは、Google フォームを用い、学部のグループラインやSNS 等で回答を得た。



第1回アンケートで用いたボード

問い「日本で初めてクリスマスが行われたのは山口であることを知っていますか」
〈第1回アンケート（11月）〉

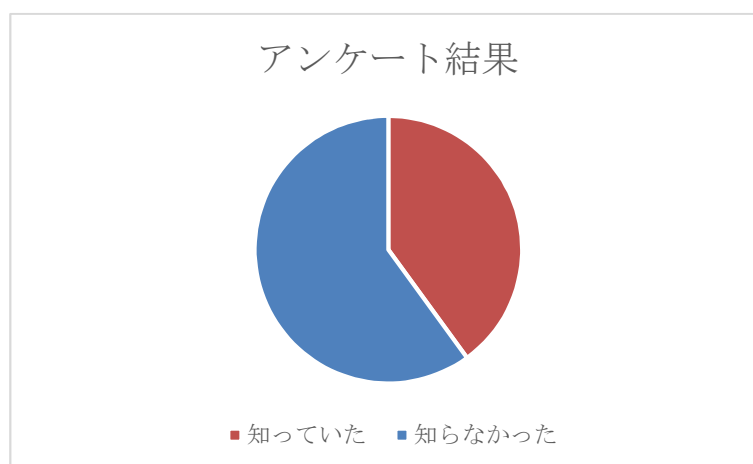


図1 第1回アンケート結果（40%，60%）

〈第2回アンケート（1月）〉

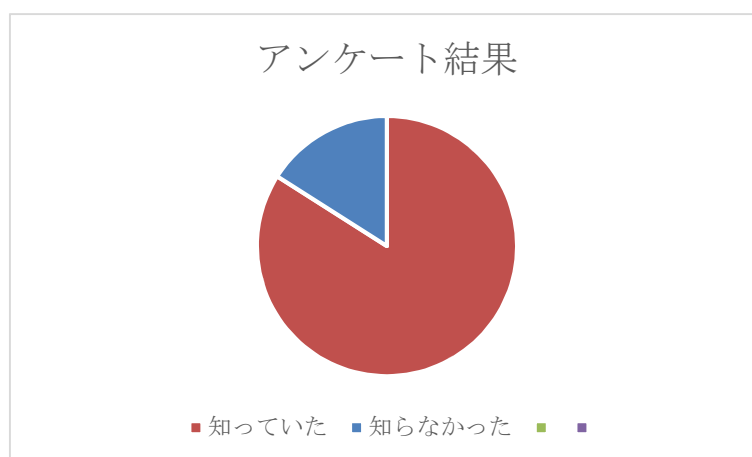


図2 第2回アンケート結果（84%，16%）

前述の通りアンケート方法が異なることや回答数（母数）が異なるため単純比較はできないものの、本プロジ

エクトによる、山口とクリスマスの関係についての認知度向上効果はあったと考えられる。

加えて、第2回アンケートではその手法の特徴を活かし、下記のような質問もしている。
(1) 問い「どこでクリスマスが山口発祥であることを知りましたか」

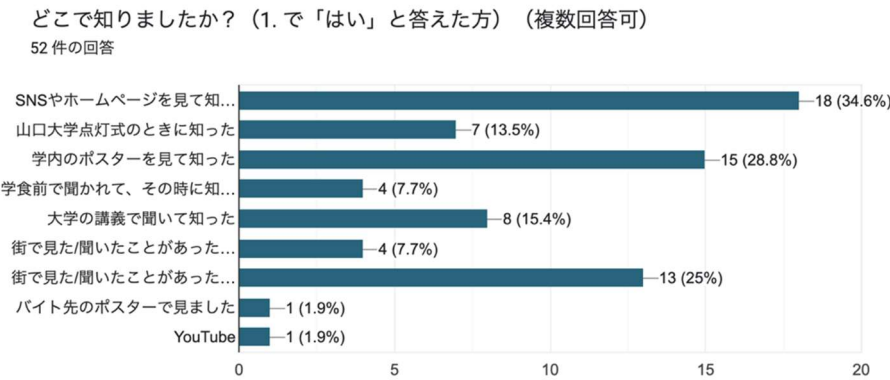


図3 Google フォームアンケートの結果

- ※回答の選択肢
- SNS やホームページを見て知った
 - 山口大学点灯式の時に知った
 - 学内のポスターを見て知った
 - 学食前で聞かれて、その時に知った (第1回アンケート)
 - 大学の講義で聞いて知った
 - 街で見た/聞いたことがあった (1年以内)
 - 街で見た/聞いたことがあった (1年以上前)
 - (+任意入力欄)

これより、本活動の SNS 広報活動や学内ポスター掲示で史実を知った人々が多数いることが判明した。
また、山口出身の学生の中には中学校や高校でそれを学んだことがある人もいるようだった。

(2) 問い「今年の山大イルミネーションを見ましたか」

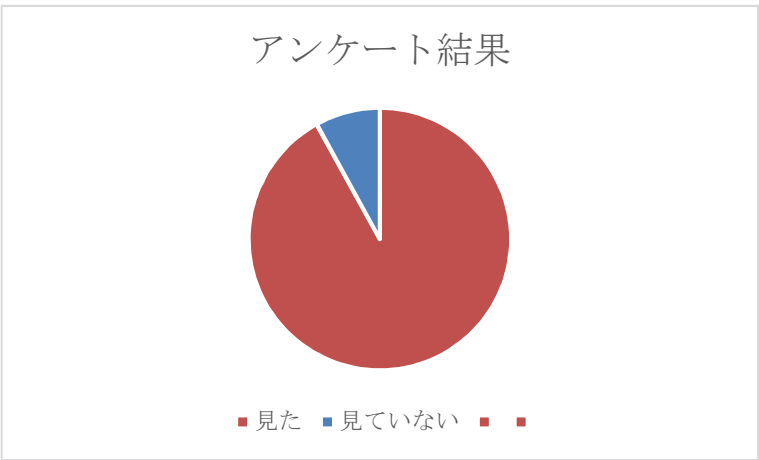


図4 第2回アンケート結果 (2) (92%, 8%)

これより、回答したほとんどの人が山口大学のイルミネーションを見たという事実がわかった。
恐らく回答者のほとんどが山口大学生であると思われるため、信号待ちの際に欄干に設置した横断幕に目を向

けた人も少なからずいたであろう。

その他、任意入力で感想および意見を書く欄を設けた。

感想が 49 件、ご意見として 16 件の回答を得たが、非常に長くなってしまうため省略する。

趣旨としてはポジティブなもの（綺麗（素敵）だった、テンション・モチベーションが上がった、特別感があった、来年も期待している など）がほとんどを占めたが、改善すべき点として装飾範囲やクオリティの低さに対する指摘もあった。

6. 反省点

本活動の反省点としては、大きく 3 つある。

1 つ目は、点灯範囲と安全管理である。

当初の計画では山大通りの街路樹に関しても点灯を行う予定であった。しかしながら電源確保が困難であることや、機材購入の予算が不足することから範囲を変更し大学周りのみに留まることとなった。本プロジェクトのイルミネーションは学生向けのイルミネーションではなく、地域全体に向けたイルミネーション（目的達成のための手段・過程を考えれば結果的には学生向けという表現も間違っていないが）であり、地域の多くの人に認識してもらいたかったためにここには悔いが残る。

また、事前に防水加工を施していたものの、点灯はするが制御基板のすぐ近くまで浸水し、表面上は問題なさそうに見えるが一步間違えば見物人に危害が及んでいた可能性のあるものが存在した。また断線等により不点灯となったり不安定な点灯となったりしたものもあり、景観を損ねるだけでなくその断線箇所から漏電の危険もあり安全な運用とは言い難かった。予算の都合上信頼性に欠ける商品ばかり（物によっては日本の専門業者から購入する値段の 10 分の 1 程度の破格であった）を購入しており、正直作りが粗いものがほとんどであったためこのような状況になったのは必然的であった。故障は初期段階に多発しており、活動の中でそのような製品であってもうまく対処するノウハウを身に着けたため、来年度以降続ける場合、もし予算不足で今年度と同様の製品を用いる場合は経験を活かして安全な運用を目指したい。

2 つ目は、SNS 広報活動である。

最低限の投稿は行っていたものの、SNS 担当者間で運用方法がまとまっていなかったり、方法について認識の違いがあったりしたため投稿数が少なくなり、目的達成のための手段及び山口商工会議所の連携内容としては力不足な状況となってしまった。本来は毎日何かしらの投稿を行うことで活動をアピールできるのが目標であったため、今後はメンバー内で運用方法について検討しなおしたい。

3 つ目は、クリスマス当日前後の活動である。

アンケートの指摘にもあったのだが、本プロジェクトの重大な欠陥としてクリスマス（イブ）当日に何の企画もイベントも行わなかったことが挙げられる。点灯式をピークに通行人の関心は徐々に減少していくのみであり、点灯期間中はその保守に精一杯となり注目を集められるような活動が何一つできていなかったことは一番の反省点である。結果的にクリスマス当日はほとんどイルミネーションを見に訪れる人を見かけることができなかった。当日は各家庭や友達同士で楽しむことが考えられるため来場者が少ないことは仕方がないとしても、期間中にクリスマスに対する関心が高まるような活動（イルミネーションをアピールする活動）がひとつでもあれば状況は変わったのではないかと考えられる。来年度実現可能な場合は、クリスマスにイベントが行えるよう事前に計画していきたい。

7. 感想

本活動の中で最も印象的であったのが、私たちが「こういったことをしたい」と企画を提案した際に今回関わった方（学生・一般の方含む）全てが協力的になってくださったことだった。それは私たちと同様の問題意識を持っていたからなのか、学生の自主活動を応援する気持ちからなのか、それとも別の何かであるのかはわからないが、誰もがそのような姿勢で私たちを支えてくださったことは非常にありがたかった。

活動を通しての感想として、計画性と創意工夫の大切さを感じた。また物事は必ずしも思い通りには進まないということを実感した。計画は 2022 年の 2 月頃から行っていたが、今年度はほとんどの活動がいきあたりばったりとってしまった。そのような状況下でも臨機応変かつ迅速に動いてくれたメンバーにも感謝の気持ちでいっぱいである。また、足りないものがある時にいかにそれを補うかという力も試された。例えば、メンバーの誰も機械に関する専門的な知識はなかったが、機材の仕様が予想と違った場合にはそれを分解して出てきた基板の型番から仕様を調べ、ヒットした海外サイトを翻訳して読解し、想定通りの動きをするように改造したり、故障

があった場合には先に故障し使用不能になった機材の部品を取って修理したりするなどして設備の維持を続けた。ネオンライトの制作についても、業者に同じデザインで依頼した場合は恐らく数倍する値段になると思われるものを素人による手作業で制作した。今の時代、お金さえあればイルミネーションについては思った通りのものが殆ど既製品で手に入り、楽に制作も設置も管理も済んだことであろう。またそれが当たり前であるために、加工の方法や設置の方法などもインターネットで調べてもヒットすることの方が稀である。すなわち素人の施工としては前例がないことばかりを実現させたことになる。その為に失敗も多くあったものの、失敗を繰り返しながら、本来この予算ではどう考えても実現不可能だったイルミネーションを強引に実現させることができた。11月30日の早朝まで作業は続き疲労は限界に達していたが、その夜に点灯した瞬間の達成感は人生で一番であったと言っても過言ではない。このプロジェクトは情熱に満ちた本プロジェクトメンバー、職員の方々、その他関係者が協働して作り上げた1つの作品であるように感じた。内容だけを考えればおもしろプロジェクトでなくてもできたことかもしれないが、私自身はおもしろプロジェクトに応募して本当に良かったと心から感じている。

今回の活動で実際に目的達成ができたかを客観的に考えると、その進捗としてはほんの少しであったかもしれない。しかし私は0を1にしたことに大きな価値があると考えます。今回で得た貴重な機会や経験、関係（つながり）を大切に、出来るだけ長く活動を継続していきたいと考えた。

8. 今後について

今回実施した活動については、非常に多くの方から来年度以降も継続して行ってほしいという声をいただいている。それに加え自分たち自身にとっても今回の活動内容には悔いが残る部分や要改善の部分が多いため、どんな形になるかは未定ではあるが継続およびさらなるクオリティアップを目指していきたい。特にクリスマス当日付近のイベント開催については必須であるため、今のうちから計画を練っていきたい。また、本報告書ではあまり触れなかった山口商工会議所の関わるクリスマスイベントについても、来年度は参加できるものは参加しその様子をレポートする投稿等もできたらと考えている。

イルミネーションについてであるが、今年度使った機材はほとんどが来年度の使用には耐えられるような状態ではないため、再購入もしくは大規模補修が求められる。それを逆にチャンスと捉え、より斬新に「山口のクリスマスを盛り上げる」ことができるように努めていきたい。

また、今回は冬季（クリスマス）のみに絞った活動であったが、山口にはクリスマス以外にも魅力的な文化や歴史が多くある。団体名「ブラッシュアップ・ヤマグチ」の名にふさわしく、今後はそれらについても学生視点からできることを探し、その魅力を広めるとともに振興を図り、私たちの街、山口に磨きをかけていけたらと考えている。